

鹿児島県垂水市牛根境地区を次世代につなげる地元教科書〔境浜／さけはま〕

境浜

Presents by 境地区公民館

ふるさと本

S a k e h a m a - F u r u s a t o - B o o k

永久
保存版



御神木に見守られ
今日も境は元気です。

時代が移り流れても、
今もそこに「ふるさと」が
あるという幸せ。



新しい地元のくつろぎスペース 境浜ふれあい館

はば
幅広い世代が訪れ、地域のつながりを深めあう空間づくり



ソーラー
パネルで
発電！

よか場所が
できた！
トイレも完備！

- ◆完成／平成 28 年 3 月
- ◆運用／境浜ふれあい館運営協議会
境地区公民館から同協議会へ委託。
※同協議会は境地区住民で構成。
- ◆総務省事業＝平成 27 年度過疎地域等
集落ネットワーク圏形成支援事業



境 地区公民館では、青木屋
さんの斜め後ろの場所
に、「境浜ふれあい館」を建設
いたしました。

これは、境地区公民館を中心
に進めている境づくり計画（境
地区地域振興計画）の一環とし
て、総務省事業を活用して建設
したもので、地域住民のふれあ
いや交流を深める場所として、
地域の方ならどなたでも利用
できる場所です。（土地は、地
元の岩田幸治さんのご好意によ
り、お借りしています。）

ちよっとしたお茶のみや、井
戸端会議、料理を持ち寄って食
の交流を行ったり、高齢者と子
どもの交流の場として、習い事
教室を開催したり、その利用方
法は無限大です。

境地区に誕生した新しい憩い
の場をぜひ、ご利用ください。

境浜 ふるさと本／目次

Sakehama-Furusato-Book-Contents

総務省の皆さんに感謝！

◎本誌は、総務省の「平成 27 年度過疎地域等集落ネットワー
ク圏形成支援事業」を活用し、境地区公民館が発行しています。

- 03 新しい地元のくつろぎスペース
境浜ふれあい館
- 04-13 特集！牛根境ってどんなところ？
境浜を知る
04-05 写真／桜島を望む牛根境
06-07 1 垂水市最北の地
08-09 2 漁業のまち
10-11 3 養殖の歴史
12-13 4 インタビュー
- 14-15 伝統行事
先人の想いは、引き継がれる。
- 16-19 Photo studio
思い出写真館
- 20-23 牛根境・食の原点を教えます！
美味しい境浜
- 24-25 Sakehama Story
境浜の逸話
- 26-27 分かる人には分かる！
境浜のことば辞典

未来に残そう わがふるさと境浜

本誌は、「ふるさとを次の世
代へ文化を継承する」ことを
目的に、牛根境地区の歴史等
を冊子化する「郷土史」作り
をスタートいたしました。そ
の後、幅広い読者層に読んで
いただくために、「若い世代
の興味を惹くデザイン性」、
「高齢者が往時を懐かしく思
える戦後の写真等の掲載」等
の検討を重ね、名称を「ふる
さと本」とすることで、先入
観なく、手に取っていただけ
る誌面構成を心がけました。
子どもから大人まで、より多
くの幅広い世代に読んでいた
だければ幸いです。

どうぞ、ごゆっく
りお読みください。



◎境まちづくり
推進グループ歴史事業
代表：岩田光穂

- ◎発行／平成 28 年 3 月 25 日（金）
- ◎発行元／境地区公民館（鹿児島県垂水市牛根境 1257-1 / ☎ 0994-36-3414）
- ◎編集／境まちづくり推進グループ歴史事業（代表：岩田光穂氏）
- ◎デザイン協力／垂水市企画政策課地域振興係 & 秘書広報係（☎ 0994-32-1111）
- ◎印刷・製本／有限会社垂水中央印刷（☎ 0994-32-0315）
- ◎注意／写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
- ◎参考・引用文献
①垂水市史上巻（垂水市）②市勢要覧 2008（垂水市）
③市報たるみず縮刷 2（垂水市）④垂水史料集・八（垂水市教育委員会）
⑤平成 27 年度教育行政要覧（垂水市教育委員会）⑥境小学校要覧（境小学校）

◎境地区 MAP-QR



◎境づくり計画-QR



※ Map は Google Map 上で表示されます。
※ 境づくり計画は、垂水市 WEB サイトに移動します。

牛根境ってどんなところ？

特集

境浜を知る

「境浜（さけはま）」とは、ここ牛根境の浜を示す言葉で、牛根境の愛称といえます。この特集では、境浜の地域性や歴史などをご紹介します！



海と山に囲まれた穏やかなまち

「牛根境（うしねさかい）」は、霧島市と隣接する垂水市最北の場所に位置しています。東には「始良カルデラ」からなる山地を背にし、西には鹿児島県の母なる海「錦江湾（鹿児島湾）」を臨むことのできる、山と海に囲まれた場所です。

「境」という地名の由来は、曾於郡と大隅郡の境にあるため「境」になったといわれています。語源は「サツカイ」という砂瀉を意味し、「海岸の静かなところ」をいいます。



この地区は、旧藩時代には「曾於郡福山村境」となり、その後、牛根二川地区との地理的な近さや、親族の往来や結婚等も多かったため、明治初年に「牛根村境」となりました。

この地は、弥生時代から漁業が盛んであったといわれ、それは老神神社前から出土した弥生式土器から見てとることができます。弥生時代には、下宮神社の下まで入江になっていて、小舟の停泊としては最適で、福山の宮之浦を出帆した神武天皇がこの地に停泊し、この港から瀬戸海峡に向けて出帆されたという伝説も伝えられています。

昭和30年頃は、漁業を中心としながらも、自給のために畑作も行って、商店街には映画館等もあり、

活気にあふれていて、とても栄えた地区でした。近年では、少子高齢化が進み、昭和49年に1904人いた人口は、平成27年4月には719人と減少していますが、現在でも漁業関係者が大半を占める漁業のまちで、ピワ栽培も行われています。

また、境小学校の新教員歓迎会では、「甘く煮たブリの頭をかじらせる」行事が今も続いています。その他に、全国に名高いかめ壺焼酎「森伊蔵」の酒蔵などがあり、比較的人口密度が高く、国道沿いには商店街が形成されています。

◎境小学校 ◎境小学校新教員歓迎会 ◎老神神社



ダイジェスト HISTORY ① 牛根境の歴史

- 明治 11 年
境簡易科小学創設
- 明治 22 年
垂水村、牛根村、新城村が発足
- 大正 3 年
桜島の大爆発（大正噴火）
- 昭和 30 年
牛根村、旧垂水町、新城村を統廃合⇒垂水町の誕生
- 昭和 33 年
垂水市制施行（垂水町⇒垂水市）
- 昭和 47 年
境小学校校舎改築
- 昭和 55 年
境地区公民館 完成
- 平成 6 年
牛根境鉄道記念公園 完成
光村記念館 完成
- 平成 22 年
牛根中学校統廃合



平成6年／旧国鉄大隅線の大隅境駅跡地を垂水市が整備し、地区住民が「憩いの場をつくりたい」との思いで桜を植樹して「牛根境鉄道記念公園」が完成しました。現在では、春になれば満開の桜が咲き誇り、夜には提灯でのライトアップが行われ、市内屈指の花見スポットになっています。（写真上：日中、写真下：夜のライトアップ）



地引網・きんちゃく

地引網とは？

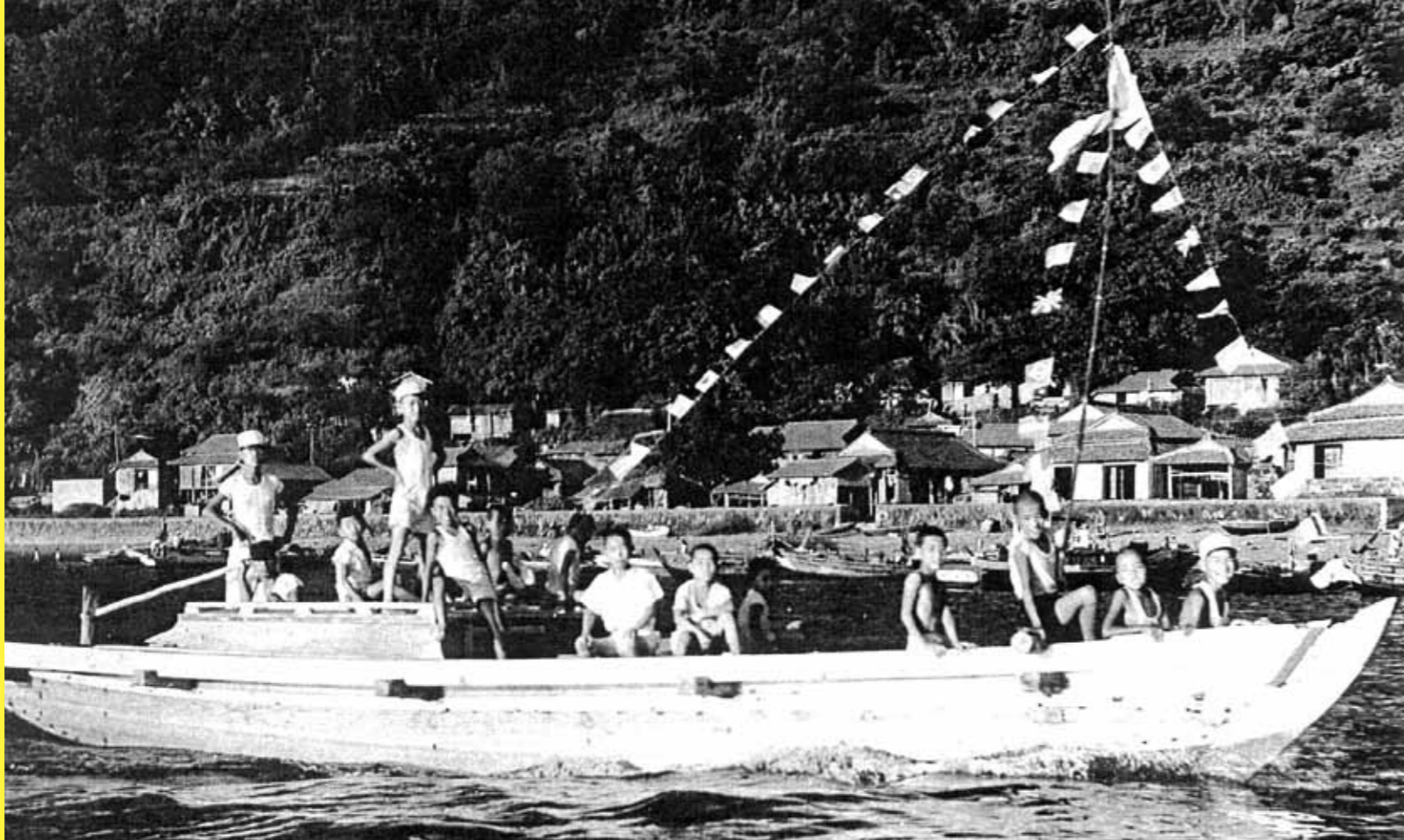
■概要
灯舟と網舟（魚を取り囲むように網を打つ船）が、網を海辺から引き寄せて魚を取る漁法です。

■場所
場所は抽選で取り決め、境の海岸の3か所ほどで行われていました。これは現在の川下の浜、中村、田村の浜になります。

■まっどっ
網を引き寄せる作業には、「まっどっ」と呼ばれるロープを巻き取る大きな木の道具を使い、4～5人で柄の棒を押しながら回りました。また朝方3時頃になると「かせをせー」と呼びかける声が浜中に響き渡りました。

きんちゃくとは？

■概要
きんちゃくは、いわゆる「まき網」のことです。大体の船団が①火舟、②ひらかた、③網舟、④焼玉船で構成され、火舟2隻（網元の親方と息子など）、ひらかた2隻（2、3人）、網舟1隻（5、6人）で、6隻の舟と最低15人ほどの人手が必要でした。



2 漁業のまち

海に生き、漁を生業としてきたまち

昭和30年頃

昭和30年頃の生活は、早いうちに夕飯をとって、大勢の家族に見送られ沖へ漁に出て、翌朝に「カタクチイワシ」の入った「竹かごのいけす」を引いた本船が見えると喜ばれていたと伝えられています。

牛根境の漁業は「一本釣り」、「地引網（ごこあん）」、「きんちゃく（八

田網・引っきゃん・まき網」の大きく3つに分けられます。

漁場は、湾内はもちろん、魚のなときは古江、海潟、喜入など、遠くへ出かけて行ったそうです。一度外へ出ると、当時は20日位は帰れず、船員はそれぞれ着替えや薪、水や生活に必要な物資を積み込んで出漁していきました。

漁の報酬は、「あんの親方」と呼

ばれる「網元」の元に集まり、ソバを食べ、焼酎を飲みながら、分け前をもらう「計算」と呼ばれる風習があったそうです。

昔は、祝いごとにソバを食べる風習があり、月1回の給与はお祝いごとに当たることと、労働者に対しての1か月のねぎらいの気持ちもあつたのかもしれない。そのためか、この日は酔っ払う人たちが多かったそうです。

月夜の晩は漁が休みで、海が時化ている時は、漁に出ることは難しいため、網などの繕いや、舟の整備が行われていました。また、竹かごいけすに獲ったカタクチイワシは遠用カツ才釣り船の業者に売っていました。

昭和30年代の転換期

昭和30年代に入ると、高度経済成長の時代が到来し、若者が出稼ぎに行ったり、終戦直後ほど魚が獲れなくなりました。

当時の同組合長の中村万太郎氏は、昭和32年に香川県引田漁業協同組合のハマチ（ブリ）養殖現場を視察しました。その際、大きく成長した高価なブリに驚き、視察の翌年の昭和33年には、県内初のハマチ養殖が始まりました。

観光漁業からのスタート

養殖当初は、桜島口の入り江を仕切って放流し、餌付けして観光客に釣ってもらうという「観光漁業」の形で行われました。日本の高度経済成長による好景気の追い風と、鹿児島特有の冬場でも下がらない水温の利点により、大きなハマチやブリを他県に先駆けて出荷し、文字通り、日本一の漁協となりました。

3 養殖の歴史

養殖業の最盛期から現在へ

ハマチやブリ養殖業者の大半が牛根境の人たちです。好景気に沸く日本経済のバブルがはじけるまで、牛根境はかつてない活況となり、最盛期には100を超えるハマチ養殖業者がいたといえます。

その後、バブルの崩壊に合わせるように、次第に経営体の数も減っていききました。これには、養殖業が自然を相手にしたものであり、作業の近代化や大型化、生産尾数の拡大に伴う餌不足、餌代の高騰など、養殖業をとりまく環境が厳しくなってきたことが関係しています。

現在は、経営体数そのものは、最盛期の約1割となりましたが、各規模は大きく、生産尾数も多く、今も牛根境の基幹産業として、日々の暮

らしを支え、日本の水産業の一翼を担っています。

昭和39年真珠養殖

養殖業は魚だけでなく、昭和39年には、真珠養殖も行われていた時期がありました。

真珠養殖（真珠用稚貝の養殖）は当初、桜島の麓に近いところで行っていましたが、同年に佐賀の山勝真珠株式会社60人ほどの従業員とともに牛根境の浜に進出したことで、牛根境で雇用が生まれ、約60人が採用され、大変にぎやかになりました。真珠養殖の方法は、川下から芦戸の浜にかけて沖合5〜70mまで足場用のいかだを浮かべ、「玉入れ」

とよばれるあこや貝の中に小さな玉を入れて、沖に吊り下げてある網の中へ移します。その後、真珠の玉が大きくなり、美しく輝く色になるのを3年近く待ちでぎ上がりします。しかし、この間にフジツボが付いたりするので管理がなかなか大変だったそうです。若い人だけでなく、年配の人たちにもこのフジツボ落としなどは良い仕事でしたが、鹿児島の水温の高さなどが原因だったのか、貝に虫がついて次第に採算が合わなくなっていました。創業10年近くをもつて撤退を余儀なくされました。



ダイジェスト HISTORY ③ 牛根漁協の歴史

- 昭和18年4月 牛根村漁業会 設立
- 昭和24年10月 牛根漁業協同組合 設立
- 昭和32年8月 桜島観光地蓄養池内にて網仕切アジ釣堀を開始
- 昭和32年10月 香川県引田漁協へハマチ養殖の先進地視察を実施
- 昭和33年 県内初のハマチ養殖を開始
- 昭和39年 真珠稚貝養殖の開始
- 昭和40年 境事務所 新築
- 昭和55年 ヒラメ養殖の開始
- 昭和59年3月 麓事務所に漁村センターが落成



上の写真は、桜島口近くにあった「牛根養魚場（鯛・ハマチ釣堀・休憩・宿泊施設）」の当時の写真。

下の写真は、現在の様子で、釣堀の堤防跡が残っています。

伝統行事

先人の想いは、引き継がれる。

「伝統行事」は、その地域に伝わる催し物。どんな催し物も誕生の瞬間があり、そこには「行事」を生み出す想いが存在します。そして、月日を積み重ねることで、「伝統」となります。伝統行事とは、過ぎ去りし日々と今日をつなぐものかもしれません。



- 1 / 1月：鬼火焚き
- 2 / 11月：グラウンドゴルフ大会
- 3 / 9月：十五夜
- 4 / 12月：ふれあい餅つき大会
- 5 / 9月：境小校区合同運動会
- 6・7 / 7月：六月灯
- 8 / 8月：盆踊り大会 ※盆踊りは、平成27年度に復活した伝統行事です。

3	2	1
5	4	
8		6
		7

棒踊りとは？

牛根境の伝統行事の中で、特に有名なのは二月祭りの伝統行事として古くから伝わる「棒踊り」です。棒踊りは、守り神として信仰されている老神社に、地区民の一年間の五穀豊穡と家内安全を祈願する奉納踊りとして、現在まで伝わっています。

また棒踊りは、旧暦初春初申の日と定められ、この日が新暦の二月頃にあたることから、別名「二月祭り」と呼ばれ親しまれています。

棒踊りは、三尺・鎌・六尺という道具を持ち、6人が1組で勇壮に踊ります。前後2人は入れ替わりながら大きく切り合い、三尺と六尺は鎌の頭上で切り合い、トンボと呼ばれる動きで跳ねながら踊ります。

棒踊りの起源は、豊臣秀吉の

時代、朝鮮征伐の出陣を鼓舞するため、あるいは百姓一揆の隠れ武術を練習するための踊りであるとされています。そして、牛根境には、百年以上前に輝北の百引あたりから伝わってきたのではないかとわれています。

当時は、現在の境小学校より北側を「上」、南側を「下」として、鎌踊りが踊られて、昭和初期から上側が福地の踊りを取り入れ、6尺の杖を使う現在の棒踊りを始め、それに伴い下も取り入れ、現在に至っています。棒踊りは、戦争のため昭和18年頃から23年頃まで途絶えていましたが、戦後に復活しました。

現在は、境小学校の児童や職員、PTAに加え、地域の方々や「きばろう会」が加わり、校区を回っています。棒踊りをとおして子ども、地域、学校との信頼関係がつけられています。



棒踊りの唄

- 1 今こそとおる神にもめい
- 1 こんころめの国分、加治木へ鹿児島へ
- 1 七旗たてて おさのめのかず
- 1 おせろが 山は 前は大海
- 1 べぶんこの つのは もしよげがそっばい
- 1 とっしゃごのはなは もめば手にそむ
- 1 山太郎がねは 川の瀬にすむ
- 1 やけののきじは 岡の瀬にすむ
- 1 きりしま松は こがねの花が咲く
- 1 きよめの雨は ぱらりさらりと
- 1 もどれとの風は そよとふきがはな
- 1 だきよてねるは 月がさえこむ
- 1 むすめが前は 婿がなぐさむ

Photo 3



花嫁と家族／境の商店通りを花嫁と家族が歩く様子

Photo 4



ルース台風被害／昭和26年10月14日に九州に上陸したルース台風による被害

境地区公民館や、地元の方からご提供いただいた写真から9点をご紹介します！大人には懐かしく、そして子どもたちには、初めて見る写真ばかりかもしれません。さあ、写真でタイムスリップして、当時の暮らしにふれてみませんか？



Photo 1



境小学校の旧校舎／中央にある木は、今はもう無い「梅檀（せんたん）」の木。

Photo 2



境小学校の校門前にて

Photo 8



しんらんしょうにん だいおんきほうよう
昭和 36 年親鸞聖人 700 回大遠忌法要②

Photo 7



しんらんしょうにん だいおんきほうよう
昭和 36 年親鸞聖人 700 回大遠忌法要①

Photo 5



写真右上の船は、他船を牽引する焼玉（ヤッダマ=エンジン）を搭載した船。

Photo 9



しんらんしょうにん だいおんきほうよう
昭和 36 年親鸞聖人 700 回大遠忌法要③/ 境の商店を歩く様子

Photo 6



写真上は真珠養殖。その手前で子どもたちがイカダ遊びをしている様子。

牛根境・食の原点を教えます！

美味しい境浜

牛根境には昔から愛されている郷土料理があります。このページでは、その美味しい郷土料理から地元が誇るお菓子や焼酎をご紹介します！

今回ご紹介するのは、郷土料理から、「すり身のつけあげ」「から芋だご」など8品と、青木菓子店さんが丹精込めて作った「はまち最中」、そして垂水市が世界に誇る焼酎「森伊蔵」です。どれも作り手の想いが詰まったかけがいのないものです。

【のり汁】



にぼしなどで出汁をとり、海苔と豆腐を煮たシンプルな料理。海苔は食べる直前に入れると色鮮やかになる。境の浜で海苔がよく拾えたため、日常的に食べられていた。

【五目】



大豆や大根、ゴボウや厚揚げなどの材料を使った煮物。現在では良い食材が手に入るため、鳥のササミなどを入れている。戦後はお祝いのときに出されていた高級料理。

【そば】



つなぎを使うことから人と人をつなぐ縁起物として、正月や二月祭りで食べられていて、大根で量増しすることもあった。そばが切れると味が落ちるため、山芋の入れ過ぎに注意し、よく練って丸める。

【なます】



ニンジンと大根を使った酢の物で、紅白の色合いになることから、お祝いのときによくつくられていた。好みに合わせて三杯酢の比率を調整し、刻んだゆずを乗せる。

【だご汁】



でんぷん粉を丸め、大根やゴボウなどの野菜と一緒に煮る料理。にぼしや雑魚で出汁をとり、つなぎに里いもを加えることで、よりまとまっておいしくなります。

【から芋だご】



蒸した芋ともち米を混ぜ合わせ、中に小豆を入れる。団子は、熱いうちにつかないとまとまりにくいので注意。現在ではもちつき機が使われるが、芋の上にもち米を乗せて同時に蒸すこともあった。



◎郷土料理撮影協力/いきいきサロン元気会の皆さん/境地区の高齢者へ伝統料理をふるまう活動をした際に取材協力をいただきました。同会は、高齢者の体操やグランドゴルフ、花見会等を支援する奉仕活動を月1回程度実施しています。

【がね】



芋と野菜を卵と小麦粉でつなぎ、油で揚げる料理。揚げる直前に小麦粉で混ぜ合わせることでよりおいしくなる。形がカニに見えることから「がね」と呼ばれるようになった。

【すり身のつけあげ】



イワシ等の魚の身を、卵や豆腐、ニラ等と合わせ油で揚げた料理。戦時中は漁を休むことが多く魚が増えたため、戦後は大漁となり、水揚げの際に網元が海辺に落としていった魚で作ることも。

もりいぞう
【森伊蔵】

有限会社森伊蔵酒造

森伊蔵酒造／創業：明治18年／本格芋焼酎・森伊蔵を製造・販売する酒造会社／〒899-4631 鹿児島県垂水市牛根境1337／TEL：0994-36-2063
／時間 9:00～17:00（日曜休み）



五代当主
森 覚志 氏



店内はジャズやクラシックの音楽が流れ、非日常的な特別な雰囲気を感じることができます。森伊蔵には、フランスのシラク前大統領から直筆で激励の手紙も送られた逸話があり、森伊蔵は、ワイン大国の大統領をも虜にしました。



森 覚志 氏
◎五代当主
◎32歳の時帰郷し、四代当主である父・森伊蔵氏の蔵子として修行を行い、その後、五代当主となる。

地元とお客様に感謝し
楽しく酔う喜びの酒を造り続けたい

「森伊蔵」は、「幻の焼酎」と称されることもある、本格芋焼酎。その名は、五代当主森覚志氏の父・四代当主の名を冠したものだ。覚志氏が蔵子として修業をはじめた当時は、大手の焼酎しか売れない時代。「このままでは廃業するしかない」そんな逆境に立たされていたといえます。修行を経て、父から杜氏の座を譲り受けたのを機に、昭和63年「お客様が直接買いに来てもらえるような焼酎を造ろう」と、原料の調達から販売まで、常識に捉われず、積み重ねてきた伝統を徹底的に磨き上げ、かめ壺仕込みの「森伊蔵」が誕生しました。「森伊蔵は、私たちにとって焼酎文化を継承する唯一無二の存在です。これからも、地域のご協力のもと、楽しく酔う喜びの酒造りを心がけてまいります」

もなか
【はまち最中】

青木屋菓子店

青木屋菓子店／創業：昭和40年代／かるかななどの鹿児島郷土菓子を取り扱う菓子店／〒899-4631 鹿児島県垂水市牛根境1118／TEL：0994-36-2105／営業 9:00～16:00（日曜休み）



二代目店主
青木 誠 氏



平成25年に改装された店内は、清潔感漂う木目が心を和ませてくれます。この取材時にも、二人のおばあちゃんがお店を訪れ、入り口にある小ぶりの長椅子に腰かけながら、「誠くん」と親しげ声をかけ、お菓子の注文が行われていました。



青木 誠 氏
◎二代目店主・菓子製造販売
◎代表／青木秀秋（77）さん（誠さんの父）

地元で気軽に食べられる
菓子づくりを続けていきたい

青木屋菓子店創業の昭和40年代の境は、商店が軒を連ね賑わっていました。当時、「境の名物菓子を作ろう」と考えていた初代店主の青木秀秋氏は、牛根の旅館からハマチ養殖を活かしたご当地最中の製作提案を受け、漁師経験を生かしながら、境の漁業を象徴する最中を作成しました。味の種類は、「抹茶」一種類のみ。以前は「焼酎」、「かぼちゃ」、「白餡」、「レーズン」など様々な味がありましたが、当時から人気の高かった「抹茶」が今日でも残っています。二代目店主の青木誠氏は、「季節や日々の天候で変化する微妙な水分等を調整し、昔ながらの味を変えたい」と話します。はまち最中は、今日も地元で愛されるお茶菓子として、地元住民の心の海を泳ぎ続けていきます。

5 竜宮伝説

深港から約5km沖で、向島（燃島）との間に「竜宮」があったとされています。干潮時には水深5～10mもない大きく広い浅瀬があり、大きい船では座礁することもあります。そのため、「島があってもおかしくない」とされ、この島にあった神社が海中に沈み、飯牟礼神社に御神体をうつしたともいわれています。鳥居や石段があり、波で壊れて次第に沈んでいったという話もあり、海面が澄んでいるときには、石段の一部が見えることがあるといわれています。

6 神様の浜下り

毎月23日は、「神様が浜を下る日」といわれ、神社から海岸までの家庭では犬を飼ってはいけないという言い伝えがあり、近年まで犬は飼われていなかったそうです。

7 鬼火焚きの由来

正月行事として行われている「鬼火焚き」。これは、宮中で正月15日と18日に「吉書を焼く儀式」に由来しています。宮中の正式な方法では、青竹を束ねて立て、毬打3個を結び、これに扇子や短冊、吉書などを添え、謡いはやしつつ焼きます。民間では、長い竹数本を立て、正月の門松やしめ飾り、書初めなどを持ち寄って焼きます。この火で焼いた餅を食べることで、一年間の病が避けられると信じられています。

2 火の神講（ひのかんこ）

火災を招くとされた猿が出てきたときは、「猿がお出でになられた」といいながら、地域内の各所で米や銭、食べ物などを持ち寄り、一緒に食べながら集まり、火災に注意を配っていたといわれています。

3 地名の由来

昔、境小学校がある場所には下宮神社が鎮座し、すぐそこまで海が迫っていました。その場所は入り江になっていて、葦が生えていたことから、「上芦戸」や「下芦戸」などの地名がついたといわれています。また、「松尾」は古くは「新堀」と呼ばれていました。松尾は、昔から水が豊富だったため、江戸時代から島津藩の軍馬を放牧していた場所で、馬が逃げないように堀をめぐらしていたことから「新堀」と呼ばれ、時が流れて放牧場の管理者の姓から現在の松尾と呼ばれるようになりました。

4 蛭子神社（ひるこじんじゃ）

蛭子神社は、中園地区の小川沿いで、「しずんどん」と呼ばれ、大木の下にあったとされています。現在は石塔だけが残っていて、老神神社に合祀されています。蛭子神は、伊邪那岐尊と伊邪那美尊より生まれましたが、骨がないために葦の葉船で海に流され、海の神様「えびす様」になられたともいわれています。

1 老神神社 （おいがみじんじゃ）

天孫（天照大神の子孫であるニニギノミコトのこと）が、天の国より降りた際に、この国の道案内の先導役をした「道開きの神様」である猿田彦命をお祀りする神社です。境は昔から多くの火災の見舞われることがありました。ご祭神の名前に「猿」がつくからか、猿が出てくる時には、必ず火事が起こるといわれたそうです。



分かる人には分かる！ 境浜の ことば辞典

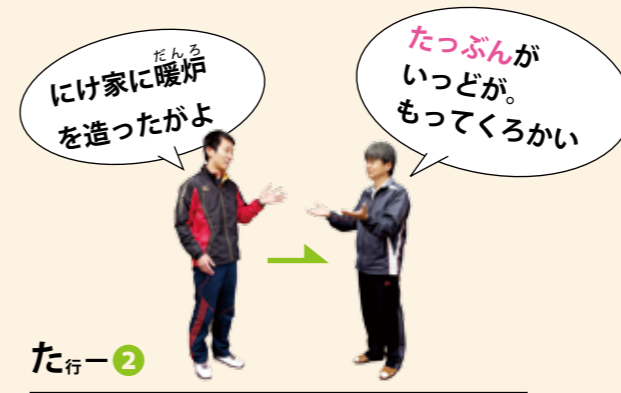
土地には土地の言葉、
いわゆる「方言」があります。
あなたはいくつ分かりますか？

撮影協力
境小学校



あ行-1 ま行-1 な行-6

訳/左側：**おまえも赤飯**を食べるね？
右側：それは**仏壇**にお供えしてあったはず
だけど、それを食べさせるのね？



た行-2

訳/左側：新しい家に暖炉を造ったよ。
右側：薪がいるだろう。持ってこようか？



あ行-8 か行-6 ま行-2

訳/左側：**味噌汁**に**きびなご**の頭を付けて
食べると美味しいよ。
右側：また、**知ったかぶり**をして話しました。



た行-5 ま行-4 か行-13

訳/左側：子猫が生まれたらしいね。
右側：小さくて、とっても可愛いよ。



た行-3 な行-5

訳/左側：良かったね！**大切に**しないとね。
右側：たくさんいるから**大変**なんだ。



か行-4 か行-1

訳/左側：だけど、猫は**文句**を**言わない**から良いよ。
右側：そうだね！



あ行-3 さ行-3

訳/左側：すぐに大きくなるよ。 ※うど=大きく
右側：大きくなると悪さをするようになるよね。

- あ行
- あっこ 〓 あなた。君。おまえ。
 - いけん 〓 どのように。
 - いっき 〓 すぐ。
 - うんだもしたん 〓 普段ないようなことが起きた時の言葉。
 - うぜらし 〓 うるさい。
 - えーも 〓 がっかり。はがゆいとときなど。
 - おぎら 〓 大きな話。大げさな話。
 - おっけ 〓 味噌汁。
 - かあーつ 〓 言う。
 - かあーつなつ 〓 言うな。
 - からつげ 〓 からす貝。
 - ぎ 〓 文句。理屈。
 - ぎった 〓 輪ゴム。「ぎったまい」は「ゴムまりのこと。
 - ぎつなごんよう 〓 キビナゴ。
 - きらす 〓 おから。
 - くじいげ 〓 巻貝。「くじい」は中身を取り出す所作。
 - くで 〓 しつこい。同じことを何度も言うなど。
 - くらむ 〓 その場からいなくなる。
 - こい・こんた・こけ 〓 「これ」を短くしたもの。
 - ござんけ 〓 結婚式。
 - ころっ・こおつ 〓 言葉の後ろにつける強調語。
 - さで 〓 大人の男性が発言を強調する時につける。
 - しいのよう 〓 ヒイラ。
 - ずっね 〓 油断できない悪さをすること。
 - ずうず・ずんだれ 〓 早く。さつさと。だらしないさま。
 - せつね 〓 狭い。せつない。
 - そし(ひ) 〓 こっ 〓 それだけ。
 - てのよう 〓 タイ。

- か行
- かあーつ 〓 言う。
 - かあーつなつ 〓 言うな。
 - からつげ 〓 からす貝。
 - ぎ 〓 文句。理屈。
 - ぎった 〓 輪ゴム。「ぎったまい」は「ゴムまりのこと。
 - ぎつなごんよう 〓 キビナゴ。
 - きらす 〓 おから。
 - くじいげ 〓 巻貝。「くじい」は中身を取り出す所作。
 - くで 〓 しつこい。同じことを何度も言うなど。
 - くらむ 〓 その場からいなくなる。
 - こい・こんた・こけ 〓 「これ」を短くしたもの。
 - ござんけ 〓 結婚式。
 - ころっ・こおつ 〓 言葉の後ろにつける強調語。
 - さで 〓 大人の男性が発言を強調する時につける。
 - しいのよう 〓 ヒイラ。
 - ずっね 〓 油断できない悪さをすること。
 - ずうず・ずんだれ 〓 早く。さつさと。だらしないさま。
 - せつね 〓 狭い。せつない。
 - そし(ひ) 〓 こっ 〓 それだけ。
 - てのよう 〓 タイ。

- た行
- たつのお 〓 タチウオ。
 - たつぶん 〓 薪。
 - たます 〓 分け前。
 - ちよつしもた 〓 しまった。
 - ちんけ 〓 小さい。細かい。低い。
 - てぬつ 〓 一緒に。
 - てねげ 〓 手ぬぐい。
 - てねん 〓 やさしく。大事に。大切。
 - とんにやく 〓 対処。対応。
 - ないよー・なんつ 〓 何事？ なんて言った？
 - にせ 〓 青年。
 - ぬつきやん 〓 人を小ばかにするときのことば。
 - ねーぼ 〓 唐いもをふかして練ったもの。
 - のさん 〓 つらい。めいる。
 - のおさん 〓 仏壇。
 - はんとける 〓 倒れる。
 - ひつきやん 〓 きんちやく網。まき網。
 - びな・みな 〓 貝。
 - ふだらき 〓 たくさん。いっぱい。
 - べぶ 〓 牛。
 - ほい 〓 トンボ。
 - まんかんめし 〓 お祝いのなどで小豆を入れて炊く赤飯。
 - まんによんごよん 〓 へりくつ。知ったかぶり。
 - むいな 〓 ひどい。
 - もぜ・むぜ 〓 かわいい。
 - ゆえ 〓 お祝い。
 - よお 〓 魚(うお)からなまったと思われれます。
 - よくろんぼ 〓 酔っ払い。

- な行
- ないよー・なんつ 〓 何事？ なんて言った？
 - にせ 〓 青年。
 - ぬつきやん 〓 人を小ばかにするときのことば。
 - ねーぼ 〓 唐いもをふかして練ったもの。
 - のさん 〓 つらい。めいる。
 - のおさん 〓 仏壇。
 - はんとける 〓 倒れる。
 - ひつきやん 〓 きんちやく網。まき網。
 - びな・みな 〓 貝。
 - ふだらき 〓 たくさん。いっぱい。
 - べぶ 〓 牛。
 - ほい 〓 トンボ。
 - まんかんめし 〓 お祝いのなどで小豆を入れて炊く赤飯。
 - まんによんごよん 〓 へりくつ。知ったかぶり。
 - むいな 〓 ひどい。
 - もぜ・むぜ 〓 かわいい。
 - ゆえ 〓 お祝い。
 - よお 〓 魚(うお)からなまったと思われれます。
 - よくろんぼ 〓 酔っ払い。

- は行
- はんとける 〓 倒れる。
 - ひつきやん 〓 きんちやく網。まき網。
 - びな・みな 〓 貝。
 - ふだらき 〓 たくさん。いっぱい。
 - べぶ 〓 牛。
 - ほい 〓 トンボ。
 - まんかんめし 〓 お祝いのなどで小豆を入れて炊く赤飯。
 - まんによんごよん 〓 へりくつ。知ったかぶり。
 - むいな 〓 ひどい。
 - もぜ・むぜ 〓 かわいい。
 - ゆえ 〓 お祝い。
 - よお 〓 魚(うお)からなまったと思われれます。
 - よくろんぼ 〓 酔っ払い。

- ま行
- まんかんめし 〓 お祝いのなどで小豆を入れて炊く赤飯。
 - まんによんごよん 〓 へりくつ。知ったかぶり。
 - むいな 〓 ひどい。
 - もぜ・むぜ 〓 かわいい。
 - ゆえ 〓 お祝い。
 - よお 〓 魚(うお)からなまったと思われれます。
 - よくろんぼ 〓 酔っ払い。

「ぎ・かあ」の複合技

「いっき・ずっね」の複合技

「ちんけ・もぜ・ころす」の複合技

「てねん・のさん」の複合技

「たつぶん」の単体技

「おっけ・きつなごんよう・まんによん」の複合技



境浜ふるさと本

Sakehama-Furusato-Book



◎発行日／平成 28 年 3 月 25 日 (金)
◎発行元／境地区公民館 (鹿児島県垂水市牛根境 1257-1 / ☎0994-36-3414)

「ふるさと」は継承される。